

方程式

差を求める式をつくる

▶平成20年10月30日(木)

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明りて、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

春は夜明けにかぎる！

夜が白々と明け，テスト当日の徹夜あけの朝，

空気も少しひんやりとして，

コーヒーの熱さがまた，のどごしにいい！

この爽快感！

春は夜明けにかぎるよな！

こんなこと，もう平安時代の人には知っていたのですね。

何のために徹夜したのかナ...！

官吏登用試験とか...！

と考える人はすごくまじめな人。

ふつうはそうは考えない，

なんといっても作者は，宮中つとめのうら若き乙女。

夜な夜な天子様が建物のなかをうろろうされている時代のこと...(*^_^*)

...，...，...！(^_^;)

深くは追求しないことにしましょ。

では，数学します。

方程式の文章問題です。

珍答の宝庫です。

楽しみですね。

などと言ってはいけないのですよ，せんせ。

行きます。

先生：「たまごを1個15円で何個か仕入れました。運ばんする途中で10個はつぶれたが，残りを1個20円で売ったので，全体として700円の利益がありました。仕入れたたまごの個数を求めなさい。」

生徒A：「1個売ると5円もうかる。仕入れた卵は 個。

売った個数は，10個はつぶれたから(- 10)個。

じゃあ，もうけは $5 \times (- 10) = 700$

$= 150$ 答 150個

じゃんじゃん！

でしょ？せんせ！」

先生：「んじゃ，んじゃ，だ！。

150個売ると，ほんとうに700円もうかんの？」

生徒A：「...！(@_@)！」

先生：「いいか，150個売ってみるぞ，

1個15円で150個仕入れると， $15\text{円}/\text{個} \times 150\text{個} = 2250\text{円}$

売ったのは，単価20円で， $150\text{個} - 10\text{個} = 140\text{個}$ ，

だから売上高は， $20\text{円}/\text{個} \times 140\text{個} = 2800\text{円}$

すると利益は， $2800\text{円} - 2250\text{円} = 550\text{円}$

700円ももうからんぞ！」

生徒A：「えっ！そんなバナナ！」

生徒B：「そのしゃれ，ふるい！，ふるい！」

生徒A：「...むっ！」

先生：「150円，どこへやった！」

生徒A：「...

くすねた！」

先生：「**ばっか！**」

ジャンジャン！

さて，生徒Aの考え方はどこがちがうのでしょうか？

このまちがいをを見つけるのは，ひじょう～に難しい！

見つけた生徒は，かなり，かなり賢い。

先生：「もそもそですね。」

神の声：「”もそもそ”，でしょ？」

先生：「そうとも言う。」

神の声：「...(-_-;) \」

先生：「遊んではいられんです...

もそもそ...

ではなく，もそもそ...ですね！

商品売買の問題では，1個あたりの利益を考えてはいかんです。

かなり難しい式になるから...

基本は，“総売価 - 総原価 = 総利益”で式を立てること。

こうすれば，上のような間違いはもそもそ生じる余地はないのですナ。」

生徒達：「ほ～っ！(*_*) / ，もそもそですネ...」

先生：「...(-_-;) \」

生徒A：「やってみる，だす」

先生：「”だす”！？」

生徒A：「いいの，勢い！勢い！

個売れたとする。

総売上は $20\text{円}/\text{個} \times (\quad - 10)\text{個}$

総原価は 15 円 / 個 × 個

総利益は 700 円

以上から方程式を立てて、

$$20(x - 10) - 15x = 700$$

これを解いて、 $x = 180$

たしかめ、なきゃ！

20 円で (180 - 10) 個売ると、3400 円の売上高、

15 円で 180 個かってきたから、原価は 2700 円。

すると、利益は 3400 円 - 2700 円 = 700 円

おう！**700 円もうかった！**」

生徒達：**Pachi, Pachi, Pachi, Bachi?**

「すごい！すごい！」

先生：「捲土重来、だな！」

生徒 A：「...？」

読めない！

”まきつちおもらい”？」

先生：「何がおもらいの？」

生徒 A：「...？」

(教室内) シラ～ッ！

先生：「...，ようするにダ，名誉挽回

Good でしょん！ということですウ。」

美術部の生徒 T：「デュシャン？

フランスの画家の？」

先生：「そう、

マルセル・デュシャン。

ニューヨーク・ダダの。」

生徒 A：「ダダ？」

美術部の生徒 T：「シュール...のダダ？」

先生：「いや、ただのダダ！」

ジャンジャン！

遊んでる場合ではないでしょ、せんせ！

先生：「はい、

そんなことは、どうでもよろし、

ところで、A 君のさいしょの解き方ですけど...、

どこがちがうのでしょうかね。

わかる人、いますか？」

生徒達：「...」

だ～れも、わかりません！

さて、どうしよう！

読者諸氏にも、悩んでもらって...

解答は次回で、きょうはここまで！

今回は、輪をかけて摩訶不思議な答案がでできます。

やはり、お金にまつわることで...

損ばかりしている生徒が出ます。

だから、数学は知っていないと、損をするといつも言っているでしょ！

数学は、日々の生活にとっても役に立つのです。

だれだ！

何のために数学を勉強するのか、などとホザイテいる輩は！

ところで、「摩訶」ってなんでしょうね？

「ホザク」も何のことでしょう？

なんとなく使ってはいるものの、突き詰めるとよく分からない言葉ってけっこうあるものです。

そういうのは、いずれまたひとつずつ深めてまいりましょ。

きょうは、方程式の文章題で、「差を求めて立式する」教材の紹介です。
基本中の基本です。

解けない生徒は、毎日”春は、あけぼの”して下さいよ。

◀ 【 まちがいをさせない教材 】 ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

方程式 16	1 解き方の基本(その2) 差を求める式をつくる	クリック
-----------	------------------------------------	------